

2025 1Q 目標

2025年3月11日 23:03

■数値演算

数値演算	4月20日 コンパイラ定義完了 5月20日 実行機構完了 6月20日 他ツールからの参照対応完了 組み込み側の対応を完了させ、Q2から関数展開・PCソフト実装に着手できるようにする。	自身の機構FW把握度を高めるためにソフト実装実務をおこなうが必要最小限に抑え、基本的には外部スタッフを最大限活用する。	・新規性の高い数値演算実行機構を実装完了。実装者テストにて仕様塗りつぶし・品質確認済。初期値に起因する重大不具合が見つかり2Qで引き続き対応が必要になっているが、目論見どおり2QからVSCreator側を本格的に開発し、8月末までに商品力評価が実施できる見通しである。	・文法仕様の網羅確認と単体テストを徹底し、上流段階での品質確保に取り組んだ。 ・毎日1〜2時間のデイリーミーティングを通じて成果物や担当者の適正を把握。スキル要件を満たさないメンバーの交代、品質担当の選任化、中核機能を担うメンバの集中的な支援などを実施し、Q2以降は外部委託主体で進められる状態にしている。
パラメータチューニング	中間確認会までに性能課題を特定し具体的な対策方針をたてる。6月20日までに、特定された全ての性能課題を解消し、商品として求められる性能を実現する。	川原さんにVSCreator側のパラメータチューニング実行機構も引継ぎ、川原さんがパラメータチューニング全体の実装を担えるようにする。	予定通り中間確認会にて性能課題と改善余地を明確化、対策を実施して目標性能を実現できている。 またVSCreatorで、データ活用の共通基盤として必要な仕組み（画像ロード&キャッシュ、画像付帯情報管理）を設計し、KSWメンバを主導し整備した。	設計の枠組みとなるAPIとモジュール間の関係は私が設計し、実装は川原さんに任せてレビューすることで、品質リスク低減と育成を両立させた。 全体設計は固まったので、3Q以降、VSCreatorからVisionEngineまでパラチュー全体を川原さん一人で開発できる状態になっている。
機構FW	1. チームの自立性向上と目標達成の両立 ・塩田さんの関与を最小限に抑えつつ(定例参加はスプリントミーティングと設計FBの2回)、チームの実装・品質目標を達成する。 2. チーム内の協力体制の強化 ・チーム内で相互にコードを把握し設計支援しあえる体制にする。	・設計思考の強化と知識共有を促進するため、設計課題と判断をADRとして記録する。 ・キーマン飯澤さんの仕事をコードレベルで把握して、設計支援できる状態にする。 ・実装者テストで見つかった不具合から設計見直しポイントを抽出し、上流で品質を高める。	・5月Eまで塩田さんの関与を半分（2日に1回の定例参加）に抑えてチーム運用を実施したが、進捗遅延が顕在化したGW以降は、元の運営体制に戻さざるを得なくなった。 2について ・品質リスクが最も高い計測高速化の設計を理解し、不具合分析から再発防止のリグレーションテストを強化した。	・ADRを活用した、計課題の共有と判断を実施。 ・1月以降に実装した飯澤さんの計測高速化のコードは全件レビューし、コードレベルで把握した。
CRA対応	XGXのSimulatorソフトのVSランタイムのバージョンを上げる	・影響範囲を明確にし評価工数を減らす。 ・デグレードしたときのインパクトが大きい実機側への影響を極力減らす。 ・外部スタッフを最大限活用する。		
Actx	V127L対応			

■振り返り

機構FWの自立性向上に関して、5月まで塩田さんの関与を減らした運用に切り替えた結果、チーム内での知識共有は促進されたが、進捗は滞り、元の体制に戻さざるを得なかった。
チーム力強化と物件目標達成の両立は達成できなかった。

■重点施策の取り組み

録画機能を提案、実現性を検討し設計方針・工数感を提示した。

■振り返り

FWチームの自立性向上に関して、5月以降は進捗遅延が顕在化したため、リーダ依存の体制に戻さざるを得なかった。
大人数を今後は、一部のメンバを別チーム化することで、段階的に自立性を高めていきたい。
柘野さんについては、メモリ
将来画像アーキテクトを担う人材となる柘野さんは、まず難易度の高い表示機能を、設計・実装・品質確保までを一貫して担い、アーキテクトとしての設計力・判断力を短期間で強化したい。
派遣社員（飯澤さん）が担当する品質リスクが最も高い計測高速化に関しては、私自身でコードレビューや不具合分析から設計・品質リスクを理解し、Q2以降、評価チームと連携して品質確保に貢献する準備ができたのはよかったこと。
KSWチームは、経験浅い本宿さんを荻原さん・佐藤雅さんで支援できる状態になっている。
経験浅い小林さんは、KSW湯地さん

■パラメータチューニング

■FWチームの

■組織力向上

機構チームのスキル向上

- FWチームをチーム分けし、これまで各メンバー個別に担当していた領域をチームで担う体制にする。
個別に塩田さんに聞いていた設計課題をまずチーム内で前にそのメンバと方針設計課題についてはそのチーム
- 定期的な知識共有セッションを設け、各メンバーの専門領域についてチーム全体で学ぶ機会を創出する。

貼り付け元 <https://www.perplexity.ai/search/si-hasohutoueakai-fa-surutimut-LYYb_vExRZi4iq1BOsDJ_A>

■